

令和3年5月25日

京都西山高等学校  
同窓生の皆さまへ

京都西山高等学校長  
森川弘仁

## 京都西山高等学校共学化について

若葉の緑が鮮やかな季節となりました。同窓生の皆様におかれましては、日頃より本校教育にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

この度2022年度より京都西山高等学校は段階的に共学化することになりました。

同窓会役員の方へは令和3年7月2日の同窓会役員会にてご報告の機会を設ける予定です。段階的な変更となりますので、施設や教育活動の内容においても、引き続き落ち着いた明るい学校を保ってまいります。在校生が自分の可能性を信じ、未来の扉を開くことのできる教育を続けてまいりますので、今後とも変わらぬご理解・ご支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

本校は、昭和2年の貞明皇后の本山光明寺行啓を記念し、関本諦承猯下が女子教育の必要性を考え創立されました。それは、まだ教育環境の整わない当時の社会状況の中で、未来を見据え、世の中に貢献できる人材育成を担う教育機関としての出発でした。

この考えは、創立以来94年間変わらないものです。2005年には通信単位制課程（共学）を併設するなど、常に社会の要請にこたえる教育機関としての役割を果たし続けています。

来年2022年には創立95周年の節目の年を迎えます。様々に変化する時代の要請に対応するため、来る創立100周年に向けて教育機関としてさらなる変化・発展が求められます。同年は新学習指導要領改訂により教育課程も大きく変わります。折しも日本でのオリンピック開催にあたり、ジェンダーについての考えはひととき注目を浴びる課題となっています。公立高校の入学願書からは性別記入欄が削除され、SDGsによる2030年までの世界的な活動の流れの中で、未来を担う高校生たちもその課題に積極的に取り組み、そして考える時代となりました。国や組織、性別に左右されることのない、個人一人ひとりが人間としてのそれぞれ幸せを享受していく時代が、確実にやってきています。

今まさに、人間としての平等と価値を共有し、個人それぞれの幸福を追求していく社会が求められています。この機会をとらえ、共学化をすすめる生徒の選択肢を広げることにより、今後も地域社会や世の中の要請にこたえていく教育機関として、その役割を果たすべく決定をいたしました。

今後、本校の広報活動などにおいて共学化の内容を目にされる機会も増えるかと存じますが、どうぞ同窓生の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。